

## シンポジウムに関するアンケート集計

● シンポジウム参加者 210名

● アンケート回収数 88

### 属性との関係

| 年齢  | 参加者 | 内訳    |    |         |     |
|-----|-----|-------|----|---------|-----|
|     |     | 動物園関係 | 学生 | 会社員・公務員 | その他 |
| 10代 | 1   |       | 1  |         |     |
| 20代 | 37  | 12    | 16 | 4       | 5   |
| 30代 | 12  | 5     | 1  | 6       |     |
| 40代 | 17  | 1     |    | 8       | 8   |
| 50代 | 8   | 3     |    | 3       | 2   |
| 60代 | 10  | 1     |    | 2       | 7   |
| 無記入 | 3   | 1     |    |         | 2   |
| 総計  | 88  | 23    | 18 | 23      | 24  |

### ● 主な意見

#### 1. 今回のシンポジウムについて

- 動物園の意義について改めて考える機会になった。
- 若手にとって刺激になった。
- 今回のシンポの様に知り考える機会が公開の場でたくさん設けられるよう願う。
- 現状の動物園を立て直すと共に先頭に立って牽引する国立動物園の創設が望まれる
- 国の機関は往々にして地元住民とのコミュニケーションを軽視しがち、国立動物園の設置が最善とは言いがたいと思う
- 具体的な構想についての意見、実現の可能性・困難性について。
- 国立の必要性は感じるが、施設と動物の展示まで必要なのか？
- 将来の子どもたちのためにも、剥製でなく生きた姿を見せ続けて生きたいと改めて思う

#### 2. 動物園に望むこと

- 一瞬のブームに流されないこと、絶対の正解はなく各自各園が明確な目標を持っていく事
- 一つひとつの動物園のコンセプトの明確化、ただ動物を展示するだけでなく、何の意味（保護・保全）を持つのか、来園者に伝えていくことが大切

- 地域の動物の展示も魅力的だが地元の動物園でいつまでもホッキョクグマやゾウが見たいと言うのが本音
- 日本中で同じような動物園ができるのは悲しいので、特徴ある動物園となって欲しい
- 野外調査を行っている研究者よりも動物に接する時間が長いと思うので、動物園だからできる研究をして欲しい
- その動物園の地域以外からくるお客もいるので、そこにも目を向けてほしい
- 大人にもっと優しい動物園に
- やる気のない人や園はたちの悪いペットショップでしかない
- 飼育技術の前進
- 子供たちに自然・生物への関心の扉を開く：インタープリテーションの充実

### 3. その他

- 今回の問題では国立動物園には直結しないと思う、また具体性に欠けていた
- 地域レベルでは不可能で国立を期待するとの事だが、他の手段も検討すべき段階と思う
- 指定管理者制度はつらい
- 一見集客性や地域の娯楽からは離れるかもしれないが、長い目で見れば地球レベルでの貢献になるかもしれない
- 集客で価値を測ることをやめないと、保護や研究、教育に力を入れてゆく余裕がないのが問題だと思う
- これからの日本の動物園はどうあればいいのか引き続き意見交換していきたいテーマです
- マスコミに踊らされるだけでなく良質なマスコミを利用して
- 国が信じられない今日この頃動物園を任せられるだろうか、働く人が大変になりそう
- 環境省と動物園との連携が国立動物園のあり方に関係してくると思う
- 長嶺さんの話で様々な可能性のヒントを得た、地元の人々が動き、行政もどんどん動く例として大変興味深かった、
- 国立ゾウ園、国立カワウソ園など単一動物種の園もありかもしれない
- 動物園法の整備が必要であろう
- ボンヤリしたもので良いので構想を提示していただければと思う
- 次回も参加したい